

近畿5議席・「比例30万」の目標をみんなのものにして 総選挙勝利に向けた活動をただちに本格化させよう

第27回党大会は、「野党と市民の共闘が政治を動かす、戦後かつてない新しい時代」に入ったもとの来るべき総選挙を、野党共闘の勝利と日本共産党の躍進で、安倍政権打倒、野党連合政権実現へ大きな一歩を踏み出す、歴史的な選挙にしようと呼びかけました。

党躍進の目標は、①「比例を軸に」「比例850万、15%以上」を獲得し、全国11すべての比例ブロックで議席増、比例第3党を実現すること、②小選挙区での必勝区を攻勢的に設定して議席の大幅増に挑戦すること、です。これに見合う京都の得票目標は「比例30万、25%以上」です。

比例目標実現を正面にすえて党躍進の勢いをつくるのが野党共闘前進・勝利にとっても決定的に重要です。また比例の大波ができてこそ小選挙区でも勝利できます。

近畿5議席と「比例30万」目標の関係をつかみ、すべての自治体、支部、分野が、自らの「比例30万」に見合った得票目標・支持拡大目標をもって、総選挙勝利に向けた活動を本格化させましょう。

◇「比例850万、15%以上」「全国11すべての比例ブロックで議席増」の大志とロマンある挑戦

前回2014年総選挙では、比例369万票（6・13%）から606万票（11・37%）に、比例8議席から20議席に、大躍進しました。小選挙区でも沖縄1区で勝利しました。

次期総選挙で「全国11すべての比例ブロックで議席増」をかちとると比例は31議席になります。そのためには「比例850万、15%以上」の得票が必要であり、これを実現すると比例第3党も展望できます。

日本共産党の過去最高の比例得票・得票率は、1998年参院選の819万5千票（14・6%）です。（表②）また比例議席の過去最高は96年総選挙の24議席でした。

党大会決定が提起したのは、これらを上回る大志とロマンをもった挑戦です。

◇衆院選のしくみと議席獲得に必要な得票率

■比例は「政党名」だけで投票——衆議院選挙には比例代表と小選挙区の二つの投票があります。衆院選の比例は政党名しか書けません。（参院選の比例は政党名も個人名も可）小選挙区は個人名で投票します。

■「近畿」が選挙区——参院選の場合は、比例は全国一つの選挙区ですが、衆院選は11のブロックがそれぞれ選挙区となって行われます。ブロックごとに定数があり各党の比例得票の合計数・率に応じて、議席数が配分されるしくみです。当選者はブロックごとに各党があらかじめ決めた名簿順位に従って決まります。衆院選では「近畿」が選挙区としてたたかわれる——これが参院選との大きな違いです。

2014年総選挙の選挙結果、比例順位						
	比例代表				小選挙区	合計議席
	得票数	得票率	議席	順位		
自民党	17,658,916	33.11%	68	①	223	291
民主党	9,775,991	18.33%	35	②	38	73
維新の党	8,382,699	15.72%	30	③	11	41
公明党	7,314,236	13.71%	26	④	9	35
日本共産党	6,062,962	11.37%	20	⑤	1	21
その他	3,758,081	7.04%	1		5	6
合計	53,334,447	100.00%	180		295	475

2012年総選挙の選挙結果、比例順位						
	比例代表				小選挙区議席	合計議席
	得票数	得票率	議席	順位		
自民党	16,624,457	27.62%	57	①	237	294
維新の会	12,262,228	20.38%	40	②	14	54
民主党	9,628,653	16.00%	30	③	27	57
公明党	7,116,474	11.83%	22	④	9	31
みんなの党	5,245,586	8.72%	14	⑤	4	18
日本共産党	3,689,159	6.13%	8	⑥	0	8
未来	3,423,915	5.69%	7		2	9
その他	2,189,416	0.0364	2		7	9
合計	60,179,888	100.00%	180		300	480

■近畿ブロックの定数は1減の28に——昨年成立した衆議院定数「0増10減」によって、比例は4ブロック（東北・北信越・近畿・九州）で各1減になります。近畿ブロックの定数は1減の28です。

■議席獲得に必要な得票率——比例議席の配分方法はドント方式と呼ばれるものですが、比例1議席を絶対に獲得できる得票率（比例1議席の必要得票率）は、100%を「ブロックの定数+1」で割った数になります。各ブロックの議席目標実現に必要な得票率は、議席目標×100%÷（定数+1）です。（表①）

◇近畿5議席実現へ、「比例30万・25%以上」の実現で、京都の責任を果たそう

近畿ブロックでは1議席に必要な得票率は、3・448%です。5議席に必要な得票率は、 $5 \times 100 \div (28 + 1) = 17.24\%$ です。

ブロック	定数		現有議席	議席目標	1議席に必要な得票率	議席目標に必要な得票率	前回2014年得票率
	前回	今回					
北海道	8	8	1	2	11.11%	22.22%	12.09%
東北	14	13	1	2	7.14%	14.29%	9.89%
北関東	20	20	2	3	4.76%	14.29%	11.67%
南関東	22	22	3	4	4.35%	17.39%	11.90%
東京	17	17	3	4	5.56%	22.22%	15.37%
北信越	11	10	1	2	9.09%	18.18%	10.14%
東海	21	21	2	3	4.55%	13.64%	9.59%
近畿	29	28	4	5	3.45%	17.24%	12.84%
中国	11	11	1	2	8.33%	16.67%	9.19%
四国	6	6	0	1	14.29%	14.29%	10.12%
九州	21	20	2	3	4.76%	14.29%	9.13%
合計	180	176	20	31		平均約16%	11.37%

* 今回定数は「4減」が実施された場合。

17.24%とは、前回総選挙の近畿の得票率の1.34倍です。京都に置き換えると、前回得票率の1.34倍=24.94%の得票率が、近畿5議席実現のために必要だということです。（表③）

過去最高の比例票を獲得した98年参院選では、近畿ブロックで175万票（18.9%）、京都で28.7万票（26.4%）でした。（表②） ほぼこれに匹敵する結果を出してこそ、近畿5議席が実現できます。京都「比例30万」は得票では前回の1.5倍。この構えで総選挙に挑みましょう。

また、前回総選挙での近畿ブロックの比例得票・議席の順位は、①自民244万票（28.9%）・9議席、②維新220万票（26.1%）・8議席、③公明124万票（14.6%）・4議席、④共産108万票（12.8%）・4議席、⑤民主105万票（12.4%）・4議席、でした。近畿比例5議席、得票率17.24%の実現は、近畿の政党間の力関係を大きく転換することにもなります。

一方、近畿で4議席に必要な得票率は13.79%、3議席に必要な得票率は10.34%です。仮に前回総選挙12.84%、2016参院選11.72%にとどまると、近畿は3議席に後退する危険もあります。実際、前回4議席目（堀内照文さん）は定数29中28位でした。この点も直視しましょう。

	2016参院選比例		2014総選挙比例		1998参院選比例		1996総選挙比例	
	得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率
京都	194,503	18.50%	193,596	18.61%	287,014	26.4%	263,270	24.02%
近畿計	1,041,424	11.72%	1,084,154	12.84%	1,750,741	18.9%	1,539,172	17.48%
全国計	6,016,194	10.74%	6,062,962	11.37%	8,195,078	14.6%	7,268,743	13.08%

* 2016年、2014年は直近の「第3の躍進」の選挙、98年、96年は過去最高水準の得票・得票率。

表③ 近畿5議席獲得へは、前回2014総選挙得票率の1.34倍が必要

	有権者数 16.7.10	前回得票率の1.34倍の得票率、得票数とは				過去3回の総選挙の投票率		
		前回得票率の1.34倍	2014年の投票率では	2012年の投票率では	2009年の投票率では	2014年総選挙	2012年総選挙	2009年総選挙
京都	2,132,372	24.94%	271,143	309,855	362,659	51.0%	58.3%	68.2%
近畿計	17,207,465	17.24%	1,522,442	1,753,834	2,012,222	51.3%	59.1%	67.8%
全国計	106,202,873	15.24%	8,520,839	9,598,485	11,210,098	52.7%	59.3%	69.3%

* 2014年の投票率は過去最低、2009年の投票率は衆議院の比例制度ができた1996年以来最高の投票率